

## クリスチャン生活と召会生活における神の王国の発展

(主日——午前の第一の部)

メッセージ 7

命において目を覚ましており、奉仕において忠信である

聖書：マタイ 25:4, 9-10, 14-15, 20-23

I. わたしたちは命のために、油、神の霊、さらには彼の充満を必要とします。それによってわたしたちは処女の生活をして、主の証しとなることができます——マタイ 25:4, 9-10 :

A. 「その時、天の王国は、十人の処女が自分のともし火を持って、花婿を迎えに出て行くようなものである」——1 節 :

1. 処女は、命の面から見た信者たちを表徴します——II コリント 11:2。
2. 王国の民である信者たちは貞節な処女に似ており、暗い時代に主の証し（ともし火）を携え、主を迎えにこの世から出て行きます。このために彼女たちは、聖霊の内住だけでなく、聖霊の充満をも必要とします。
3. ともし火は、信者たちの霊を表徴しており（箴 20:27）、その中には油としての神の霊が入っています（ローマ 8:16） :

a. 信者たちは、彼らの霊の内側から神の霊の光を輝かし出します。神聖な光が人の内側の各部分の中へと輝くために、油としての神の霊は、灯芯としての人の霊（参照、ローマ 8:16）に浸透し（ミングリングされ）、人の霊と共に「燃え」なければなりません（12:11）。

b. こうして信者たちは、この時代の暗やみに輝くともし火のように、世の光となり（マタイ 5:14-16. ピリピ 2:15-16）、主の証しを担って神の栄光を表します。

4. 思慮深い者たちは、自分のともし火と共に、器に油を持っていました——マタイ 25:4 :

a. 人は神のために造られた器であり（ローマ 9:21, 23-24）、人の人格は彼の魂にあります。ですから、マタイ第 25 章 4 節の「器」は、信者たちの魂を表徴します。

b. 五人の思慮深い処女は、ともし火に油があるだけでなく、器に油を持っています。ともし火に油があるとは、彼女たちが神の霊を自分の霊に内住させていることを表徴します（ローマ 8:9, 16）。器に油を持っているとは、彼女たちが神の霊の充満を持ち、彼女たちの魂に浸透させていることを表徴します（参照、I ペテロ 2:25. ヘブル 13:17）。

c. マタイ第 25 章 9 節の「買いなさい」という言葉は、代価が払われなければならないことを示します。聖霊の充満は、この世を放棄すること、自己を対処すること、すべてにまさって主を愛すること、キリストのゆえにすべての事を損失と勘定することなどの代価によって得られます。もしわたしたちが今日この代価を払わないなら、復活させられた後に払わなければなりません——参照、啓 3:18. II コリント 5:10。

d. わたしたちの緊急の必要は、手順を経た三一の神の究極的完成であるその霊をさらに多く得ることです。そして、余分のその霊を買って、わたしたちの全存在に浸透していただく生活をするのです——マタイ 25:9. 参照、ダニエル 5:27。

B. 毎日わたしたちは、目を覚まして、代価を払い、金の油としてのその霊を買う必要があります。それによってわたしたちは、イエスの証しのためにその霊をもって諸召会を供給し、主によって褒賞を与えられて、小羊の婚宴にあずかります——マタイ 25:9-10. 啓 3:18. ゼカリヤ 4:6, 12-14. 士 9:9 :

1. わたしたちは、すべてのものにまさって主を愛し、わたしたちの目が開かれて、主の無上の尊さを見る必要があります——マタイ 22:37. ペリピ 3:8. I ペテロ 2:4, 6-7. 1:19。
2. わたしたちはすべての事を、キリストのゆえに損失と勘定する必要があります。それは、わたしたちが彼を獲得し、彼の中に見いだされ、彼を知るためです——ピリピ 3:7-10。
3. わたしたちは毎日、朝早く御言の中で主を享受し、毎日の新しい開始を持つ必要があります——詩 119:147-148。
4. わたしたちは罪を徹底的に対処する必要があります——I ヨハネ 1:7, 9。
5. わたしたちは毎日、毎時、主との交わりの中に住む必要があります——6 節. II コリント 13:14。
6. わたしたちは時を贖い取り、労力を費やして、神の聖なる言葉で浸され、浸透される必要があります——II テモテ 3:16-17. コロサイ 3:16。
7. わたしたちは、祈りの生活のために目を覚まし、警戒し、時を贖い取って祈る必要があります——エペソ 6:18. ダニエル 6:10. コロサイ 4:2。
8. わたしたちはこれらの邪悪な日々において、時を贖い取り、霊の中で満たされ、詩と賛美と霊の歌とで語り合い、すべての時に、すべての事に対して、主に感謝をささげ、キリストを畏れつつ、互いに服従し合う必要があります——エペソ 5:14-21。
9. わたしたちは、腐敗した、つまらない（有害な、不快な、価値のない）言を語ることによって、神の聖霊を悲しませるべきではありません。そうではなく、わたしたちは恵みの言を語って、聞く人たちに恵みを与えるべきです——4:29-30。
10. わたしたちは、その霊を消すべきではありません。そうではなく、わたしたちはいつも喜んでおり、絶えず祈り、あらゆることで感謝すべきです。なぜなら、これがわたしたちに対する、キリスト・イエスにある神のみこころだからです——I テサロニケ 5:16-19。
11. わたしたちはミングリングされた霊にしたがって生き、行動し、振る舞い、事を行ない、存在する必要があります——ローマ 8:4. I コリント 6:17。
12. わたしたちは、イエス・キリストの霊の満ちあふれる供給（キリストのからだの供給）で満たされて、キリストを生き、キリストを大きく表現する必要があります——ピリピ 1:19-21 前半. 詩第 133 篇. I テサロニケ 5:25。

II. わたしたちは奉仕、働きのために、タラント（霊的な賜物）を必要とします。それに

よって、わたしたちは良い奴隷として装備されて、主が完成しようとするものを完成することができます——マタイ 25:20-23. 参照、24:45-51 :

- A. 「天の王国は、ある人が外国へ行こうとして、自分の奴隷たちを呼び、彼らに自分の財産を渡すようなものである。彼はある者に五タラント、ほかの者に二タラント、ほかの者に一タラントを、それぞれの能力にしたがって与えた。そして彼は外国へ出かけた」—— 25:14-15 :
1. 奴隷たちは、奉仕の面から見た信者たちを表徴します—— I コリント 7:22-23. II ペテロ 1:1. ローマ 1:1.
  2. 「自分の財産」は、すべての信者たちを伴う召会（エペソ 1:18）を表徴します。彼らは、神の家族（マタイ 24:45）を構成します。
  3. タラントは、霊的な賜物を表徴します（25:15-23. ローマ 12:6. I コリント 12:4. I ペテロ 4:10. II テモテ 1:6-7）。命におけるその霊の充満は、わたしたちが奉仕（働き）において霊的な賜物を用いることができるようにします。奉仕における霊的な賜物に、命におけるその霊の充満が加わっていれば、わたしたちはキリストの完全な肢体となることができます。
  4. 「あなたの主人の喜び」は、わたしたちが主に対して忠信に仕えることの褒賞としての、来たるべき王国での主に対する享受を表徴します（マタイ 25:21, 23）。これは内側の満足であって、外側の地位ではありません。主の喜びにあずかることは、最も大きな褒賞であり、来たるべき王国での栄光と地位にもまします。
  5. この時代において、わたしたちは主の賜物を用いて、人々を救い、彼らに主の豊富を供給しなければなりません—— 27 節。
- B. わたしたちが主に仕える内側の動機は、彼に対するわたしたちの愛です——出 21:5. 啓 2:4-5.
- C. わたしたちの主に対する奉仕はいつも、祝福の源としての主から出て来るべきであり、方法と力としての主を通して、主へと帰し、主に栄光を得させるべきです——ローマ 11:36. 参照、民 18:1.
- D. わたしたちは、神のみこころにしたがい、からだの肢体と組み合わされることによって、わたしたちの全存在をもって主に仕える必要があります——ローマ 12:1-2, 11. 使徒 13:36. I コリント 12:14-22.
- E. わたしたちは、主の賜物を用いて、召会を建造する必要があります。それは、キリストをもって人に仕え、キリストを恵みとして彼らに供給することによってです——マタイ 25:27. I ペテロ 4:10. コロサイ 1:7. 4:12 :
1. わたしたちは、神の福音の労苦する祭司として奉仕し、罪人を救い、受け入れられる犠牲として彼らを神にささげ、最終的に彼らをキリストの中で完全に成長した人としてささげる必要があります——ローマ 15:16. 12:1. コロサイ 1:28.
  2. わたしたちは定められた時に、キリストを霊的食物として人に供給する必要があります——マタイ 24:45 :
    - a. わたしたちは、時が良くても悪くても、毎日、あらゆる種類の人にキリストを語る必要があります——使徒 5:42. 8:4. II テモテ 4:2.
    - b. わたしたちは、あらゆる集会で語る習慣を建て上げるよう、必死に奮闘する必

要があります—— I コリント 14:26, 4-5, 12, 31。

3. わたしたちは、父なる神の愛し赦す心をもって、また救い主キリストの牧養し捜す霊をもって、人を顧みる必要があります。キリストのからだの建造のために、わたしたちが何であれ、また何をしようとも、愛が最も卓越した道です——ヨハネ 21:15-17. I コリント 12:31 後半. 13:4-8, 13。
  4. わたしたちは、わたしたちの信者仲間を批判し、裁き、暴露することによって、彼らを虐待すべきではありません。そうではなく、わたしたちは気ままな者を論し、小心な者（小さな魂の者）を慰め、霊、魂、体において弱い者や信仰において弱い者を支え、すべての人に対して辛抱強くあるべきです——マタイ 24:49. I テサロニケ 5:14。
  5. わたしたちはこの世に入り込むことによって、主の賜物を無駄にし、地的な弁解を口実として主の賜物を役立たせないでおくべきではありません——マタイ 25:18-19。
- F. 福音における主のためのわたしたちの働きと労苦は、わたしたちの天然の命と天然の能力によるのではなく、主の復活の命と力によります。復活は、わたしたちが神に仕えることにおける永遠の原則です——民 17:8. I コリント 15:10, 58. 16:10 :
1. 命を与える霊は、三一の神の実際、復活の実際、キリストのからだの実際です——ヨハネ 16:13-15. 20:22. I コリント 15:45 後半. エペソ 4:4。
  2. 復活を知っているすべての人は、自分自身に絶望しています。彼らは自分ができないことを知っています。死のものはすべてわたしたちに属し、命のものはすべて主に属します——民 17:8. II コリント 1:8-9. 参照、伝 9:4。
  3. わたしたちは、自分が無であり、何も持たず、何もできないことを承認しなければなりません。わたしたちは自分自身を終わらせなければならず、自分が全く無用であることを信じなければなりません——出 2:14-15. 3:14-15. ルカ 22:32-33. I ペテロ 5:5-6。
  4. 復活したキリストは命を与える霊として、わたしたちの中に生きて、わたしたちが自分自身の中では決してできないことを、行なうことができるようにします—— I コリント 15:10. II コリント 1:8-9, 12. 4:7-18。
- G. わたしたちは、いつも主の働きに満ちあふれているべきです。なぜなら、主のためのわたしたちの労苦は、彼の復活の力を伴う彼の復活の命にあっては決して無駄になることはなく、神の永遠の定められた御旨を完成するという結果になることを知っているからです—— I コリント 15:58。